

平成23年 11月 22日

平成22年度国際ボランティア貯金寄附金に係る配分事業の中間報告書 10月末日 追加中間報告

9月5日提出の中間報告書(8月20日時点での報告)以降の追加中間報告。

★事業の進捗状況

8/21～10/31 までの進捗状況

栄養失調児とその母(または養母)を対象に事業を実施中です。

8月21日から10月31日までの新規受入栄養失調児は182名である。

合計すると、4月1日～10月31日までの新規栄養失調児の受入れは584名である。

改善が出来て卒業した子どもは10月末日現在291名である。

重症の子どもも多く、改善には時間を要しているが、殆どの子どもが着実に良い方向に向っている。

栄養失調児を持つ母親は非常に貧しいため、彼女たちの自立支援の目的で始めた「洋裁教室」は7月～9月のグループ20名が9月末に終了をした。週に4回3ヶ月の期間、4月～6月終了のグループ同様、ミシンで縫製した簡単な作品に簡単な刺繍を施すまでになった。

10月になって様子を見てみると、卒業した母親は袋を縫って家の前の道に座って売っていた。

「もっと教えて欲しい」「もっと上手くなってお金を稼いで家族に肉をたべさせたい」「また教えて欲しい」などの声ばかり沢山であり、10月からのグループに切り替えるには、ちょっとした苦労を要した。

10月～12月のグループの母親たちは10月を待ち望んでいた。(彼女たちはカレンダーも暦もなくテレビもなく、時々スタッフのところに来ては「今日はまだ10月でないのか?」と聞いていた。

現在は10月～12月のグループの母親たち20名が目を輝かせて洋裁教室で学んでいます。

9月以降の日本からの派遣状況であるが、徳永瑞子が7月7日に渡航した後、9月16日に帰国した。

その後、徳永は再度、10月11日に渡航、11月2日に帰国した。

これにより更なるきめ細やかな指導を行っている。

★ 今後の活動予定

10月末の時点におきましても、事業はほぼ計画通り実施できております。

今後の活動予定としては、継続的に、栄養失調児の改善と母への自立を目指して実施計画予定通りに、むしろそれ以上の成果を上げることが出来るよう、取り組んでいきます。

先に提出の「中間報告書」に記載いたしました今後の活動予定と全く変わることなく事業を進めていく予定でございます。

★ 現地の人々の反響・意見

こちらも前回の報告と全く同様であり、感謝の声と共に「もっとやりたい・続けたい・おしえてほしい・自立したい・仕事ができるようになりたい」という要望ばかりが多いのが現実です。

「自分が洋裁を立派にできるようになって家族と食べて行ける事が日本への御礼だ」と言いに来た母親もいました。

繰り返しの記述になりますが・・・

栄養失調児を持つ母子への自立を目的とする支援として、「子どもには栄養改善のための給食と医療を、母には洋裁と調理指導」を実施しておりますが、この事業は先述したように、大好評でして、当会の予想をはるかに超え、予想以上の反響となっております。